「学び合い」をしたら依存する？

まだまだ説明不足と感じたひと言

2020．02．26
No.91
校長　渡邉　幸二

本校では「**自ら考え、自らの力で生きる**」、そんな力を持った子どもを育てようと学校教育目標に定めています。これからの先の見えない世の中を生き抜ける人に、と考えたらそんなに異論が出ない目標だと思います。

また、学校研究で取り組んでいる「**学び合い**」についても、授業をご覧になった方々は、その素晴らしさに共感していただけます。
その中でのキーワードは「**きく**」、特に**誰かに**「**訊く**」が重要であることもわかってきました。

しかし、これらの言葉を一緒のテーブルに載せて見た時に、一般の方や「学び合い」をよく理解していない先生は、何となく**矛盾**を感じたり**違和感**を覚えたりするようです。先日の学校評議員会でも、そんなご意見があり、私は、これまでの学校としての説明不足を痛感しました。

誰かに訊いてばかりだと、人に頼ってしまうのでは…

おそらく「じりつ(自立)」という言葉の理解が問題なんだと思います。一般的に、自分の力でやり遂げていく、生活していくことを「自立」と捉えているのだと思います。概ねそういう理解でいいように思います。

しかし、人が生活していく時に、「誰かに頼らず」ということはあり得ません。水を飲むにしても何かを食べるにしても、生活していく上では誰かがつくったものに頼らざるを得ません。おそらく、社会で生活するにしても、仕事をするにしても「誰にも頼らずに」生きて行ける人はいないと思います。困ったことが起こった時は誰かに頼ったり、わからないことを誰かに訊いたりしながら私たちは生きています。つまり、**課題解決には「きく」という態度は絶対的に必要**なのです。

マイスターレポートNo.１２８にも登場します**岡本夏木氏**は、著書「**幼児期**」（森田先生が１１月お出でになった時に紹介した本です）で、

> 「能力主義教育」でもっとも重視されるのは、「デキル」ということです。「デキル」ことはよいことであって、「デキナイ」ことはよくないこととされます。そして大事なのは、デキルにしても、それが「ヒトリデデキル」ことです。他人に依存すること、他人に「タスケラレル」ことはよくないこととされます。加えて、「ハヤク」することが目標であり、「オソイ」ことは悪いこと、なくさねばならぬことです。
> …(略)…
> 「能力主義」について二つのことに注目しなければなりません。一つは今あげた「一人で早くできること」はいいとしても、それでは「できないこと」「助けられること」「遅いこと」は無条件に悪いことで、抹殺されるべきことなのかということです。「できないこと」「助けられること」「遅いこと」が人間、特に子どもにとってもつ意味を無視するところに能力主義が子どもをゆがめてゆく原因があります。

人間は一人で「できない」からこそ助け合い、「助けられた」ことへの感謝が人の共同性を支える力となってゆきます。「できないこと」こそが人間を結び付ける原動力なのです。また努力や協力は、時間を必要とします。(以下略)

と述べています。岡本氏が言うように、「できないこと」「助けられること」「遅いこと」こそが**学び合いのきっかけ**になるし、**学び合いを支える力**となっていくとも言えるのではと考えています。

国の**第２期教育振興計画**にも、その後の**第３期**にも「自立」や**「協働」**という方針が見られますが、**「誰かと共に」課題を克服していこうとする態度**は、これからの世の中を切り拓いていくためには必要な資質なのだろうと納得していただけるでしょう。先日の授業研究会では、「浜田小が考えている主体性って何ぞや」と詰め寄る参加者がいましたが、おそらく学び合いに違和感を感じていらっしゃる方なのだと思います。その方が考える主体性は、もしかするとですが「ヒトリデ　デキル」ことであり、誰かに訊いて「タスケラレル」ことを是としない考え方なのかもしれません。

浜田小の学び合いは、「きく」を重視しています。誰かに助けられながらも、一人でもできるようになることが「主体性」の一面であるし、ジャンプの課題に面白がって、たとえその時間に解けなくとも立ち向かっている姿も「主体性」だと考えます。授業では友だちの考えを聴くことに終始していたとしても、家に帰ってからの算数日記に、友だちの考えを自分なりにまとめてきたとしたら、私は十分に主体的だと思うのですがいかがでしょうか。

ことわざに「**疾風に勁草を知る**」というのがあります。誰かに異論を唱えられても、私たちには実践に裏付けられた確固たる足跡があります。これからもどうか自信をもって、浜田のブランド力を高めていってほしいと願っています。

マイスターからのお願い

マイスターが、これまでの森田先生との歩んできた足跡を、これまでのマイスターレポートから抽出して1冊の実践録としてまとめてくださるそうです。私たちにとってもとてもありがたいことです。新しくお出でになる先生や、研究会に参加してくださる熱心な先生におすそ分けすることで、学びの共同体のパイロットスクールとして歩んできたうねりをさらに大きなものにできるのではないかと思っています。

そこには、これまでの抽出されたレポートを項目立てて見やすくまとめたり、森田先生から学んだことを取り出したりしてまとめる方向のようでした。もちろん私も、そしてマイスターレポートの愛読者などからも、この2年間の研究を、森田先生からの学びを書き記させていただきたいと思っています。

浜田小の先生方には、年度末の忙しい時期ですので、ご賛同いただける方のみでけっこうです。もしよろしければA4版1枚程度でまとめていただければ幸いです。私的な出版ですので、決して無理なさらないでください。3/23(月)までマイスターに届けて欲しいということでした。